









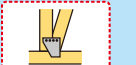
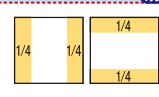



# まずはご自宅が地震にどれほど耐えられるかを理解し、住まいに合った耐震対策を考えましょう。

## あなたのお住まいは築何年ですか？



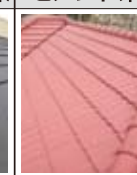

### 日本の地震と建築基準法の変化

住宅の耐震基準は地震発生と共に変化しています。

地震年表	建築基準の変遷	各項目に関する規定				
		基礎	壁の量	筋交い	壁の配置バランス	接合部
1940 (昭15)	1920年 市街地建築物法施行 1924年 市街地建築物法の大改正			1924年 筋交い等の耐震規定が新設された  筋交いは釘で柱などに固定する		
1948年 福井地震 (M7.1)	1950年 建築基準法制定 壁量の規定		規定  必要壁量が制定された	規定 「筋交いはボルト・かすがいくぎ・その他の金物で緊結しなければならない」と規定 (施行令45条)	張り間方向、及びけた行方向に、釣り合い良く配置しなければならない」と規定 (施行令46条)	 柱はかすがいで止める
1950 (昭25)	1959年 建築基準法改正 壁量の強化	底盤のない基礎でも良かった	規定  必要壁量が改正された	規定  平金物が使われ始める		
1960 (昭35)	1964年 新潟地震 (M7.5) 1965年 十勝沖地震 (M7.5)					
1970 (昭45)	1971年 建築基準法改正 基礎の布基礎化  旧耐震基準	規定  コンクリート造又は鉄筋コンクリート造の布基礎とすることが規定された				
1978年 宮城沖地震 (M7.4)	1981年 6月 建築基準法改正 壁量の再強化  新耐震基準	鉄筋入りの基礎が徐々に広まる	規定  必要壁量が改正された	規定  筋交いプレートが使われ始める	1979頃から平金物などの金物は公庫で推奨され始める	
1980 (昭55)					1988頃からホルダウング金物が使われ始める ただし通し柱のみ	
1990 (平2)	1995年 兵庫県南部地震 (M7.3)					
2000 (平12)	2000年 6月 建築基準法改正	規定  地耐力に応じた基礎構造が規定された		規定  筋交いのサイズによって筋交いを止める金物が指定された	規定  はじめて壁の配置バランスに関して規定された	規定  強い壁には強い金物を使用することが規定された

### 屋根の変遷

屋根にかかる荷重を軽減するだけでも耐震につながります。

屋根の主な種類	屋根の主な種類			
	粘土系瓦	化粧スレート系	セメント系	軽量瓦
1950 (昭25)				
1960 (昭35)	土葺瓦	カラーベスト (石綿含有)		
1970 (昭45)			モニエル瓦	
1980 (昭55)				
1990 (平2)	引掛け棧瓦 防災瓦(和瓦板)、S瓦			
2000 (平12)	防災瓦(平板瓦)	カラーベスト (無石綿)		エアルーフ (セメント系)  ROOGA